



6月



「明るい家庭づくり」作文

家庭の役割、在り方など、日頃から家庭について考えていることをテーマにした作文です。令和五年度は、小・中学校から一、八七〇点の応募がありました。市の優秀賞を受賞した作品を二か月にわたって紹介します。なお、優秀賞、優良賞受賞作品は、倉敷市のホームページに掲載しています。

●弟と私

菅生小学校 二年 吉國 志穂 よしくに しほ

私には大好きな三さいの弟がいる。でも、弟は二つ上のお姉ちゃんのほうが好きだ。だって、いつも私よりお姉ちゃんのほうに行くばかりする。くやしくて弟のほつぺをつまんだ。すると、弟がおこって、けんかになる。

夏休み、お母さんに弟のお世話たん当をまかされた。できるかしんばいだっただけ、なかよくできるチャンスだと思った。

弟はお風呂がきらいだ。私のお手つたいは弟の体あらいをすることだ。弟はお風呂に入ると、シャワーであそびはじめた。ロの中に入ると、水を入れて、ふきだした。私は、「だめだよ。」と言ったけど、だんだんのしくなっ

て、自分もあそんでしまった。

つぎの日も弟はシャワーであそびはじめた。弟がシャワーをかせてくれなかったから、つよい言ばで、「早くかして。」と言って、おりやりシャワーをつばいとなると、弟はおこってないた。それを見たお母さんは、やさしい言ばで、「頭はながせたんだね。つぎはシャワーをしようか。」と弟に言った。すると、弟はなくのをやめて、シャンプーをしはじめた。

次の日のお風呂で、私はやさしい言ばで、「まずは体をながしてシャンプーをしようか。」と言ってみた。すると、弟は自分でシャンプーをしはじめた。私はかわいいなと思うた。弟のお世話ができる自しんになった。やさしい言ばをつづけていくと、一しよになかよくあそべる時間が、ふえた。やさしく言つと、自分が思っていることが

あい手につたわるようになった。お母さんは、「自分が言われていやなことは人に言わない。自分がされていやなことは人にしない。」と言う。家でも学校でも気をつけていきたい。

●笑顔でキラキラの家族を目指して

連島南小学校 三年 山岡 未来 やまおか みく

家事をするお母さんを見ていて感じるものとがあります。

それは、料理や洗い物そうじ、洗たく、片付けなど、とてもたくさんのお母さんの毎日を、いてて本当にすごいなということだ。

夏休みになって家にいる時間が増えて、私が学校に行っている時に毎日何をしているのかを知ることができました。お母さんは私たちが家族のために一生けん命家事をしてくれて、家を整え、気持ちよく暮らせるようにしてくれていたのです。

朝起きると布団を整えて朝ごはんを作ります。朝ごはんの片付けをして、洗たくをして干します。洗たくきが動いている間に家中をそうじして回ります。洗たく物を干した後庭の手入れをしたり、野菜を収穫したりします。草取りをする日もあります。

そうしていると、あつという間にお母さんは

んの時間です。お母さんはごはんを作って、洗い物や片付けをした、少し休める時間ができます。その後はすぐに夕ごはんの準備です。夕方になったらお風呂を入れて洗たく物をしまつてたみます。夕飯の洗い物をしたり寝る準備をしたりしているとあつという間に一日が過ぎていきます。空いてる時間にも私たちの勉強や遊びの相手をしてくれたり、塾の仕事をしたりしてとても忙しいです。

そんなお母さんを見ていて、私は、「お母さんは自分の好きなことをする時間かとても少なくなっていてかわいそうだな。」と感じました。そして、お母さんの役に立てることをしたいと思うようになりました。私は、お母さんをお願いして洗たくを干すことを役目にしてもらいました。

ある日、お母さんが外で花に水やりをしている時に、だまつて洗たく物を干したことがありました。そうしたら、外から帰ってきたお母さんがそれに気づいて、「みく、ありがとう。とっても助かるよ。」と言ってくれました。その時私は、一つでもお手伝いをすることでお母さんがこんなにも喜んでくれていることを知って、とてもうれしかったです。私が、洗たく物を干す以外にも洗い物や床みがきなどをお母さんの代わりにやれば、お母さんが楽になるし、家族も皆



第一 福田小学
3年 航憲
校見 (令和5年度)

「ポンプ車」
(水彩・クレパス)

学よ消ましえ
見しなりバス
きぼうあしを
とぼろがク具
の消し車大
遠足したに
しにいうし
にぼうしと
わがき

楽しく過ごすことができると思いました。

この経験を通して、私は明るい家庭を作るために大切なことは、何でも人任せにするのではなく、家族の一人ひとりが、他の家族のために進んで仕事をしたり、優しい言葉かけたりすることだと思いました。私は、これからも洗たくしただけでなく、自分の使ったものを片付けたり、汚れに気がついたらふいたりして、できることからやろうと決めました。大切な私の家族が毎日もっと笑顔で楽しく、自分の大好きなことをたくさんして過ごせたら、私にとって最高の幸せです。

● 我が家の在り方

南中学校 一年 おおくぼ あすか
大久保 明日花

「ねえねえ、おいちゃん。そろばん合格したからフルート買って。」

これが家族の大げんかへの第一歩となるとは思いませんでした。

私は中学に入り、吹奏楽でフルートを担当することになった。最初のうちは学校の借りる予定だったが、友達も先輩も自分のきれいなフルートを持っているし、家でも毎日練習して上手になりたいという気持ちが高まり、私も欲しいと思うようになった。しかし、フルートは高価なもので買ってもらえないと思っていた。けれど、祖父に相談してみた。

「そろばん検定で合格したらお祝いで買ってあげるよ。」

と言ってくれたので、そろばん合格を目指して必死で勉強した。そして、見事合格し、祖父にそのことを報告すると、祖母もすごく喜んでくれて私も嬉しかった。それから祖父がどのメーカーの楽器がいいのか、どのランクなら中学生向けなのか、親戚に聞いてくれたり、インターネットで調べてくれたりして、アドバイスをくれた。私は楽器屋

さんへ行き、いろいろ吹き比べをしてみると、祖父が勧めてくれた楽器は、私にとって音を出すのが難しく、店員さんに、玄人向けで修理に時間がかかると言われ、私は違うメーカーのフルートがいいと思った。でも、私が選んだものは予算オーバーで少しあきらめかけていた。そのことを父に相談すると金額に驚き、

「そんな高いフルートがもし盗難されたらどうするんだ。」

と言出し、私は思わず

「盗難なんか聞いたことないわ。心配するところがおかしい。」

と言ってけんかになった。父が、

「子供にそんな高いものを持たせて心配せんのか。」

と言ひ、母は反撃した。

「それなら、フルートを持って行く時は常にケースに入れて自分で持っておいて、学校には置いて帰らないようにしたらいい。」

私もそれに納得していたけれど、父は、「そんな高価な楽器は必要ない。それでもあきらめられなければ盗難保険に入れ。」と言う。私はそこまでもめるならフルートはいらないと泣いてしまった。そんなとき、このけんかを止めたのはなんと、チャットGPT。私がチャットGPTなら、このけんかを解決してくれると思い、「フルート盗難につ

いて心配している人の適切な応答」と入力すると、今の状況にぴったりの返答が出てきた。それを見せると父は笑い、母も笑顔になり、今まで冷たかった家の中が一気に温かくなった。とりあえず盗難保険に入るという約束でフルートを買いに、楽器屋さんへ行った。祖父には申し訳ないけれど、自分の欲しいメーカーがいいと伝えると、

「自分が使うものだから自分で決めていいよ。」

と言ってくれたので、予算オーバーだったが自分の欲しかったフルートを買ってもらうことができた。

このフルートは、みんなの思いが詰まったものだ。買ってもらって満足するのではなく、たくさん練習し、毎回きれいに磨き、置く場所にも気を遣いながら大切に使いたい。

私の家族は自分の思いを相手にぶつけてけんかになるけれど、最後にはそれぞれの思いを理解し、認め合つので仲が良いのかもしれない。相手のことを気遣って、これを言ったら傷つくかなと思って言わなかったり、我慢したりするのではなく、自分の正直な思いを相手に伝えて、もしそれが間違っていたら指摘し合えるのが家族だ。けんかも多いけれど、ぶつかり合いながら少しずつ前進むのが、我が家流の在り方である。

(来月も作文を掲載します)